

日本共産党

うらわ会

日本共産党浦和区後援会ニュース
2015年1月号・No.43
浦和区北浦和3-14-16
TEL/FAX048-833-4515
★★★★(部内資料)★★★★

衆院選21議席の力を一斉地方選へ!

2015年 年頭にあたってのご挨拶

さいたま市議候補:とりうみ 敏行



浦和区に共産党の議席は必要です! 頑張ります!

後援会のみなさん 2015年おめでとうございます。

お元気で新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は突然の総選挙でしたが後援会のみなさんには大変お世話になりました。

日本共産党は、「5つの政治転換」と「政党助成金の廃止」を訴えて21議席を確保し、18年ぶりの画期的躍進を果たし、議案提案権を確保しました。

安倍内閣はこの選挙の結果で、「国民の信を得た」と強弁し、「暴走政治」を一層強引に進めようとしています。

このような安倍自公政権に再び痛打を与える政治選が4月の一斉選挙となります。

さいたま市議会は、60議席の定数の内、49議席が自民・公明・民主等、市長与党で占めら

れています。

これらの議員に共通しているのは「消費税増税賛成」であり、下水道料金値上げ、各種手数料値上げに賛成していることです。

議席を確保し、18年ぶりの画期的躍進を果たし、議案提案権を確保しました。

浦和区でも、前回の選挙で共産党の議席が無くなり、増税議員ばかりとなり、市民の願いを真っすぐ議会に届ける議員がいなくなりました。

さいたま市には、市民に負担を押し付けながら貯め込んだ662億円の各種基金があります。その一部を国民健康保険税の引き下げや、下水道料金引き下げ、認可保育園の増設などに使えば、市民生活や地域経済は大きく好転します。この仕事を、私、とりうみ敏行にやらせて頂けますようよろしくお願いいたします。浦和区での議席、必ず取り戻す決意を述べて年頭のご挨拶といたします。今年もよろしくお願いいたします。

たたかひの歴史に学んで

浦和区後援会会長:野々垣 務

新年明けましておめでとうございます。

昨年の総選挙では、安倍政権に対する多くの国民の不安や危機感が共産党に対する期待と支持となって大きな躍進をとげました。この成果を奮闘された党のみなさん、後援会のみなさんと共にこの喜びをわかち合いたいと思います。

開票日の夜は、最後まで当選の行方を胸を躍らせながら観ていました。13名から、一人二人と増えていくのを一人で拳をあげて快哉を叫んで

おりました。久しぶりの興奮の一夜でした。

全国の比例では600万を超える人々が「日本共産党」と投票用紙に書いているんだということを想像すると言ひ知れぬ感動を覚えます。私もこの人々の心にしっかりつながっていたいと思ひました。どんな国難があろうとこのつながりに未来をつくる希望があると確信したいと思ひます。自共対決というたたかいは、安倍首相のあの虚ろなことばを私たちの暮らしの実態から裁くことでした。今の政権は、「いのち」を最も粗末にしていることです。生きとし生けるものの「いのち」を最大限尊重することが憲法の根源的精神です。憲法九条はその中核にあると思ひます。

菅原文太が沖縄知事選で病をおして語った二つのことばに象徴されていました。彼はその後亡くなりこのことばが遺言になりました。「人々を絶対に飢えさせてはいけない」「戦争は絶対にやってはいけない」という二つのメッセージは沖縄の人々を励ました。これは彼の戦争体験からの叫びだったのでしょ。これは現代が抱える世界人民の共通の願いだと思ひます。過去の歴史に学ぶことこそ今日の問題を解明し未来を切り拓く創造的なたたかいです。

理想を高く掲げ、皆さんと連帯を広げて春の統一地方選に立ち向かいたいと思ひます。

衆院選での大躍進を市議選へ！！

—浦和区後援会忘年会で決意新たに—



あいさつをするとりうみ市議選候補

総選挙後の12月23日(火)、浦和区後援会の忘年会(慰労会)が高砂の平和の学び場・コラボ21で行われました。衆院選での大躍進直後だけあって会場に集まったおよそ20名の各地の

後援会の皆さんの表情は明るく活気ある忘年会となりました。

選对本部長の射田さんから、浦和区では得票率が自民、民主について公明、維新を上回って第3党になったこと、この力を来年の市議選に繋がるように引き続き頑張りましょうとの全体報告とねぎらいの言葉がありました。

選对本部の山田さんの乾杯の発声のあと、今回衆院選で先頭になって活動していただいたとりうみ敏行市議候補から、選挙後の御礼の挨拶回りの中で、政治を変えて欲しいという共産党への期待をひしひしと感じていること、衆院選で共産党へ投票していただいた方にはすべて市議選でも共産党へ投票していただけるようお願いしたい、そのために争点を明確にして、先頭にたつて頑張りたい、との挨拶がありました。

参加された皆さんの声を、紙面の都合で一言づつ紹介します。

●最終日近くには30代、40代の实体经济を担っている層の感触が良かった。安倍政権の経済政策に裏切られているのを感じた。(浦和東口：岸さん)

●議案提案権を活用し直ちに政党助成金廃止を掲げて欲しい。選挙終盤、若く意識ある人だと思いが、共産党のあの厚い政策パンフを受け取る人が多く驚いた。(領家：針ヶ谷さん)

●ハンドマイク宣伝、電話活動を何度もした。今迄になく大変反応がよかった。選挙後も御礼のハンドマイクをしたが周りから頑張ると、声が掛かってくるほどだった。(元町：関内さん)

●浦和駅、北浦和駅、東浦和駅すべてで駅頭活動をした(全員驚きの拍手)。党本部勤めの友人からもほめられた。来年のとりうみさん支援でも頑張りたい。(常盤南：伊藤さん)

●志位委員長が「今回の結果は画期的」と言う表現をしたが、画期的とは”歴史的”という意味であり、滅多にない歴史的勝利であることを実感した。(岸町：佐々木さん)

●今回は駅頭ビラまきで頑張った。声を掛けてくれる人が多く、「共に頑張りましょう」と応じた。引き続き市議選でも頑張りたい。(浦和北：草野さん)

●今回は81歳の女房がだいぶ回ってくれた。私も杖をつきながら領家の岩槻街道を歩いて声掛けしました。その中で、「今回は息子にも話しましょう」と言ってくれた人がいたのが嬉しい。606万票にはそうした若い人も多いのではないかと思う。私が当選した時も41議席獲得し、議案提案権を得たが、大型間接税反対で効果を発揮した。議席のもつ意味は国民にはなかなか理解しにくいところがあるが提案権を發揮して欲しい。同様にさいたま市議選でも安定した議

先が真つ暗だ
その心は
壊れた望遠鏡と解く
アベノミクスとかけて

なぞかけ

岸町…だん吉

案提案権を持つよう頑張る。私も三本脚で頑張ります（元衆議院議員：渡辺貢さん）

●大田区生まれで浦和育ち。これまで小選挙区は民主党、比例区は共産党というパターンが多かったが、今回初めて共産党支持活動を行った。伊藤岳さん

と反原発活動もやっている。次は地元とのとりうみさんで頑張りたい。（岸町：木下さん）

●今回は梅村さんの迫力が違っていた。政党助成金廃止はなかなか理解してもらえない。自分自身もそうだが、党もこの問題を国民に如何に理解してもらえるかもっと研究する必要を感じる（浦和東口：小川さん）

●4月からの駅頭宣伝でのべ500名の参加者があったり、衆院選で候補者先導で多くの人々が活動をされた。東浦和駅頭で感じたが、”原発再稼働ダメダメ、きっぱり廃炉、日本共産党、日本共産党”など若い感性が良かった。後援会ニュースやWEBサイトなど、活動範囲も広がってきた。みんなの力で飛躍できた。市議選は個人戦になるので、さらに皆の力を結集しないとイケない。（領家：石川さん）

●今回TEL活動で気付いた事は、あいまいな人が少なく、はっきりと入れますという人が多かった。市議選は2議席取る位の覚悟でやらなければいけないと思う。（木崎：田鹿さん）

●家でTEL作戦、400件かけて頑張った。市議選にもつながるように考えてTELした。二人でやって、相手にポンポンボタンを押されるので止めるわけにもいかない（それはいい方法だ、の声あり）。こういう結果で本当によかった。（木崎：山田さん）

●嬉しかったのは、長らく活動してなかった人が、今回は何かやらないとイケない、と罪悪感を感じて、自分からTEL作戦などに参加してくれたことです。それと今回は何かやればいい反応が帰ってくるということ。こういう時はどんどんやらなければなりません。とりうみさんの地元として何としても頑張らなければと思っています。プールをやっているの、とりうみさんを浮上させましょう。（浦和東：馬場さん）

●今回まさか21までいくとは思わなかった。京都の穀田さんが当選すればという数字だ。

（浦和東：佐々木さん）

●4年前は女性が多く、男性は隠れていた感じだったが4年たって、男性が増えて前に出てくるようになったのは良かったと思う。（北浦和：倉林さん）

●本日はある会合の帰りだが助成金の話題が多か

った。助成金廃止が話題になった。共産党もいったん受け取った上でたとえば意見広告を出したらどうかという提案は多い。皆さんはどう思いますか。私はいろんな方に話をしています。周辺でも白髪のおばさんで知られています。

（浦和北：平沢さん）

（まとめ 古澤 英二）

書評「税金を払わない巨大企業」

富岡 幸雄 著

文芸新書

元町：平山 安通

税金の裏も表も知り尽くした人！

著者の富岡さんは1925年生まれですから90近い方です。兵隊として戦争に行き何とか生還しましたが、多くの同級生は帰らぬ人となりました。

「日本を戦争に駆り立てた原因は、国家財政や経済がぜい弱で、それを補うために他国に進出を企てた」と考え、二度と悲惨な戦争を起こさないためには国を内側から強くしなければならぬと戦後国税庁に入り大蔵事務次官や国税実査官として徴税現場を経験しました。この間の脱税摘発は毎年のように第一位。

退官してからは中央大学商学部助教授として税務会計学を創設、研究に携わりながら民間企業の顧問として税務相談にも携わりました。第一回公認会計士と第一回税理士試験の第一号合格者でもあります。

このように税金の裏も表も、取る側も取られる側も経験した著者が「遺言として」書き上げたのが本書です。

大企業と役員の実名を挙げて追及。

この本のすごさは現実の大企業とそのリーダーたちの実名を挙げて追及していることです。

第一章「大企業は国に税金を払っていない」では誰でも名前を知っているような有名企業が実際いくら税金を払っているのかを単年度と、5期通算の両方の数字を挙げていかに税金を払っていないのかを示しています。

第2章「企業エゴむき出しの経済界リーダーたち」ではそうした税金をまともに払わない大企業のリーダーが「日本の税金は高すぎる」と声高に



川柳

躍進だ 新たな決意 共産党

岸町…だん吉

この道は 戦争への道 ストップだ

小渕さん 当選しても 許さない

増税は 民にとっては 憎税だ

叫んでいることを取り上げ、その厚顔ぶりを厳しく批判しています。第3章はなぜ大企業の法人税がこんなに少なくても済むのかの手口が詳細に述べられています。これ

★1/10 (土) うたごえ in パレット
PM2:00~ 4:00 参加費500円
アコーディオン: 浜崎秀子
歌のリード: 池田充宏

★1/11 (日) 党と後援会の総決起集会
PM2:00 開場 2:30 開会 埼玉会館大ホール
弁士: 市田忠義副委員長

★2/22 (日) 春のつどい
PM2:00~ カルタスホール 北浦和クイーンズ
伊勢丹3F
参加協力券500円

これも企業の実名入りですからその覚悟のほどがわかろうというものです。

消費税引上げの本質を暴露！税金を払わない大企業と大金持ちの穴埋めに。

第4章以降は目を世界に向けてアップルやアマゾンなどの巨大多国籍企業が各国の税制の隙間についてどこの国にも税金をまともに払わない実態が述べられています。また富裕層もタックスヘイブンを活用して税金をまともに払いません。

これを読むと「これでは国が成り立たないのも当然」と思えます。こうしたつけを回されるのが逃げ道のない労働者国民で消費税の引き上げはその為だと喝破しています。

最後に著者は「崩壊した法人税制を立て直せ」と次のように訴えます。(この問題はOECDでも取り上げられ、既に改革に着手されているそうです。)

「税制は政治のバックボーンであり、社会の公正さの鑑です。公正な法人税制を再建すれば、国民から信頼される政治が確立するとともに、企業国家としての発展が期待できると信じています。真に平和で、文化の香り高く、世界から尊敬される素晴らしい企業社会と国家の姿を、愛する日本で構築していきたいのです」



《編集後記》

元禄15年12月14日は言わずと知れた赤穂四十七士の討ち入りの日。見事吉良の首を取って本懐を遂げた赤穂義士の話は「忠臣蔵」として今なお語り継がれている。浅野即日切腹、お家断絶という一方的で偏った幕府の裁定に、憤った武士と庶民は命をかけて戦ったのであった。いわば裁定のやり直しを天下に示したのであり、幕府に襟を正させたのであった。▼時と所変わって1825年12月14日のロシアはデカブリストの乱として知られている。ツァーリズム(専制政治)打倒と農奴解放を掲げ武装蜂起した青年貴族の将校たちはデカブリストと呼ばれているが、その後のロシア革命や

フランス7月革命にも大きな影響を与えた。トルストイの「戦争と平和」の源泉にもなっている。▼そして2014年12月14日の日本。もしかしたらこの日は、後世の歴史に新たに刻み込まれる日になるかもしれない。安倍政権が仕組んだクーデターのような総選挙。表面的には自公政権の圧勝と言われているが、決してそうではない。安倍政権は小選挙区制に助けられた形式的勝利であり、実質的に勝利したのは自公候補に対決して完勝したオール沖縄と21議席に躍進した共産党である。支援していただいた多くの皆様と共に喜び、地方選での更なる飛躍にと決意を新たにしたい。

(英)